

昭和基地に行った犬

※ ピンク字はメス犬
グレーの線は血縁関係

1956年、南極観測にカラフト犬による犬ぞり隊の使用が決定されました。約1,000頭いたカラフト犬の中から、それを引くのに適した40~50頭が選ばれ、稚内で訓練を受けました。同年11月、選りすぐった22頭のカラフト犬が第1次隊と共に南極へ行きました。しかし、第2次隊の越冬断念のために、その内15頭の犬たちは昭和基地に置き去りにされてしまいました。

第3次~第5次で連れて行った犬たちは、第6次隊によって全て連れ帰られました。その後第7次隊でまた2頭が昭和基地に向かいました。犬を連れて行ったのは第7次隊が最後です。

第4次隊

第3次隊から引き継いだ5頭と、第4次隊で連れて行った11頭、そして、ベルギー隊からゆずり受けたハスキー犬のベルジカの、計17頭を飼う。



子犬の頃、南極に向かう。第3次から第4次越冬隊に交代する頃の1960年1月17日に病死。



子犬の頃、南極に向かう。トチとは兄弟。第4次越冬隊と共に帰国。



子犬の頃、南極に向かう。アキと兄弟。第3・4・5・6次隊と過ごし、帰国。

第3次隊

1959年1月14日、タロ・ジロの生存確認。3頭の子犬と合わせて5頭を飼う。



第1次隊の札幌のモクの子。ハチと兄弟。越冬中行方不明。



リキの子（シロ子とは腹違い）。帰りの船上で（1961年2月19日）子犬を産む。



第1次隊の札幌のモクの子。ロクと兄弟。第4・5・6次隊と過ごす。



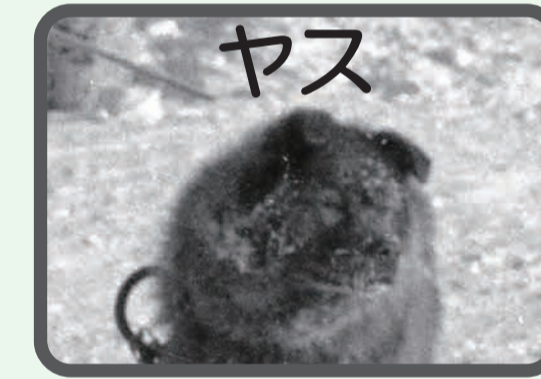
タケとハチの子。ヒデと兄弟。第4次越冬隊と帰国。



タケとハチの子。ライと兄弟。1960年8月13日死ぬ。



第4・5・6次隊と過ごす。トク・クロと兄弟。
※クロ・トク・ゴンは、ポトとユキのきょうだいのチャコの子。



1960年2月26日死ぬ。



トク・ゴンと兄弟（第1次隊のクロとは別の犬）。1960年12月12日死ぬ。



昭和基地生まれ。母親はシロ子。ユキときょうだい。第4次越冬隊と帰国。



ゴン・クロと兄弟。第4次越冬隊と帰国。



昭和基地生まれ。母親はシロ子。ポトと共に再び昭和基地へ。越冬中（1960年2月4日）と、帰りの船上（1961年2月25日）で、子犬を産む。



ハスキー犬。往路、ケープタウンでベルギー隊からもらった。愛称ベルガ。第4次越冬隊帰国時に日本へ。ブルの父親。

第7次隊~

ペットとして昭和基地へ。



ベルジカの子。母親はカラフト犬。1969年4月12日（第10次隊の頃）死ぬ。



ブルのきょうだいの子。1976年2月12日（第16次から第17次に交代する頃）死ぬ。昭和基地最後の犬。

第1~2次隊

1956年11月、第1次隊は22頭のカラフト犬と南極に向けて出発。越冬観測は11人+19頭の犬で行う。

第2次隊は、越冬できず、犬を置き去りにすることになる。昭和基地に残された犬は15頭。

メス犬シロ子と子犬8頭のみ無事に帰国。

第1次隊 越冬19頭



白黒のぶち。おとなしい性格。船酔いがひどく、隊員に心配された。首輪抜けして行方不明



目の上が殿上眉のような毛色で、「お公家のクロ」と呼ばれた。温かな性格。鎖につながれたまま死ぬ



シェパードの血が混じり、狼のような体つきだった。首輪抜けして行方不明



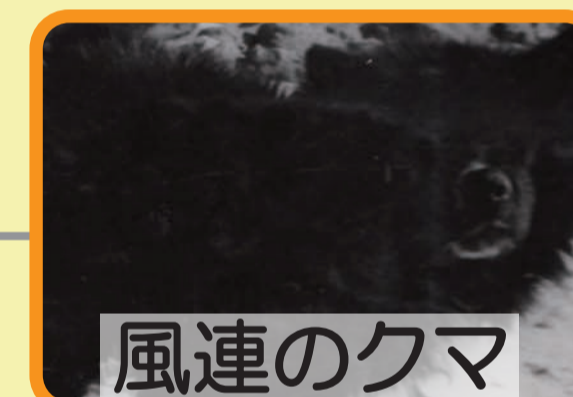
無人の昭和基地でジロと生き残り、第3次隊に発見される。第4次越冬隊と共に帰国。札幌で余生を送る。



利口な犬で、先導犬として活躍。先頭に立ちまっすぐに進めるのはシロだけだった。首輪抜けして行方不明



ゴロと兄弟だが、性格は似ておらず、とても甘えん坊。タロ・シロの年上の兄弟。首輪抜けして行方不明



アンコ・ゴロとタロ・シロの父親。一番力が強く、ケンカ好き。首輪抜けして行方不明



タロと生き残り、第3次隊に発見される。前足の先が白い。1960年7月9日病死。



他の犬たちより足が短かった。ケンカ好き。オリを破る癖があった。鎖につながれたまま死ぬ



風連のクマの子で、アンコと兄弟。一番体が大きかった。鎖につながれたまま死ぬ



比布のクマ、風連のクマと兄弟。体力があり、他の犬が疲れると先導犬として働いた。鎖につながれたまま死ぬ



シロ子の父親。頭が良く、先導犬として活躍。ボス的な風格があった。首輪抜けして行方不明



南極では寒いだろうと心配されたほどの短毛。一番の大食漢だった。鎖につながれたまま死ぬ



おとなしすぎてあまり目立たなかったが、真面目にソリを引いた。鎖につながれたまま死ぬ



旭川の西の深川生まれ。一番毛がふさふさ（モクモク）していた。鎖につながれたまま死ぬ

第1次夏隊と帰国3頭



「宗谷」の階段から落ちて大怪我を負ったため、第1次夏隊と共に帰国。シロ子と姉妹。

第1次越冬中死去・行方不明3頭



1957年8月16日に4歳で病死（腎臓炎）。



病気がちだったため、第1次夏隊と共に帰国の途につくも、船の中で病死。



紋別のクマ、風連のクマと兄弟。1957年9月4日行方不明となった。



老犬のため、第1次夏隊と共に帰国。



カラフト犬らしくなく、寒がり屋。1957年12月11日老衰（7歳）で死ぬ。